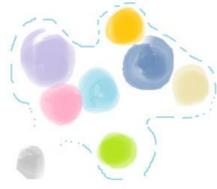


えん。

18515050 山中美紀

コンセプト1



『繋がり』についてのイメージ。
形は決まらずに、色もさまざま。
そういうものが繋がったり、
離れたたりして、一つのものを形成していく。

人と、公園と、遊びと、本と、繋がる。

→小上がりの縁側は柔らかな曲線を描き、小上がりにいる人々を繋ぐ
カフェ・図書コーナー・縁側を小上がりで繋がる
中庭・縁側から外と繋がる

コンセプト2

- ・子どもが遊ぶ場所を提供する。敷地周辺には博物館、歴史館、美術館などの多くの文教施設がある。これら施設では山形の歴史や自然の成り立ちについて学ぶことができ、敷地内に子供たちが遊ぶ遊び場があれば、周辺の文教施設にも訪れやすくなると思い、子供が遊ぶ場所を提案する。
- ・山形には子供が遊ぶ場所が少ない。子供の育成のためには学習だけではなく、遊ぶことも子供の成長には必要不可欠なので、遊ぶ場所を増やす。
- ・子どもと一緒に訪れる親にも優しいカフェにしたい。
- ・公園にあるカフェなので、公園の広い自然空間と建物を繋げ、外空間を取り入れた空間をつくる。

建物機能

- ・ユニバーサルデザインカフェ
- ・小さな図書館（児童書中心）
- ・遊び場

ユニバーサルデザイン

- ・車いす・ベビーカーの出入りがしやすいように、出入り口には全て、スロープを設けた。
- ・授乳・おむつ替え室
- ・個室トイレにはベビチェア（自分が用を足しているときに赤ちゃんを保護するもの）を設置

構造

平屋
鉄骨構造



Point 1. 中庭

中庭では子供たちがおもちゃなどで遊ぶことができる。その姿を親は小上がりやカウンター席から、見守れる。小上がりは中庭を囲むように曲線を描き、その曲線はカフェに柔らかさをもたらす。



Point3.

図書コーナーは小上がりであることを活かし、GL+150の円形の本を読むスペースを設けた。また、円形の本棚をこのように配置することで、様々な機能が入り混じったこの施設に「図書コーナー」という空間を密につくる。

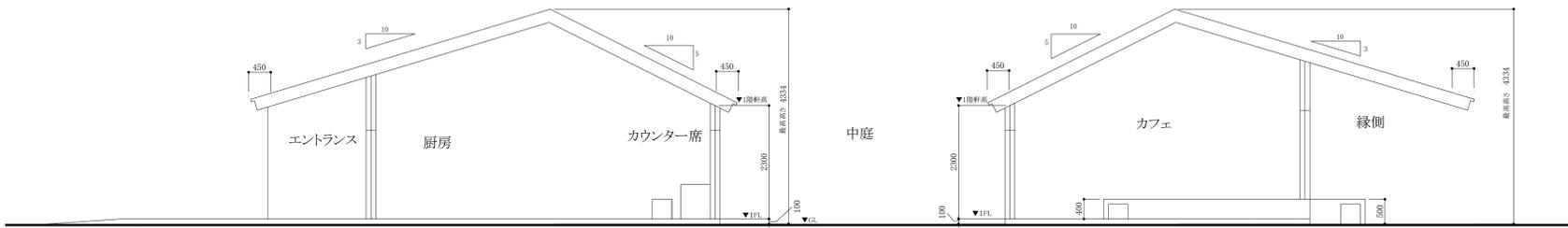


Point2. カフェと図書コーナーと縁側が一つに

3つの居場所を1つに繋げることによって、「カフェで本を読む人」「縁側で飲み物を飲む人」というように、場所による行動の制限をなくす。この施設を使う人には自分の好きな場所で好きなことをして欲しい。縁側と他2つを繋げたことで、公園にあるカフェという特性を活かした、外と繋がるカフェをつくる。

Point4. 縁側の幅は1~2m・日よけ・遊び場としての役割

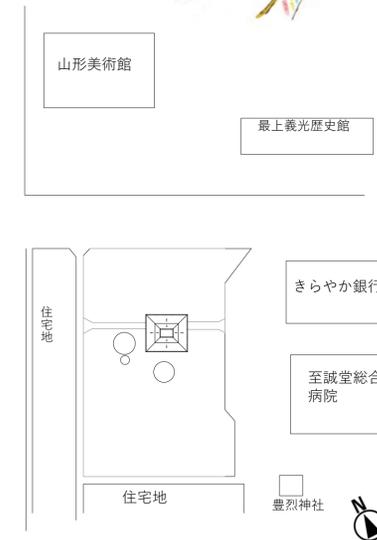
縁側の幅を2mとすることで、縁側で横になることで横になることが出来たり、子供ならば、2、3人集まって、ゲームやカードゲームをする場所にもなる。公園で子供たちが遊ぶとき、このような内部空間があることで、遊びの幅が広がる。また、日差しの強い山形では、日をよけられる休憩所ともなる。



A-A断面 S 1:50



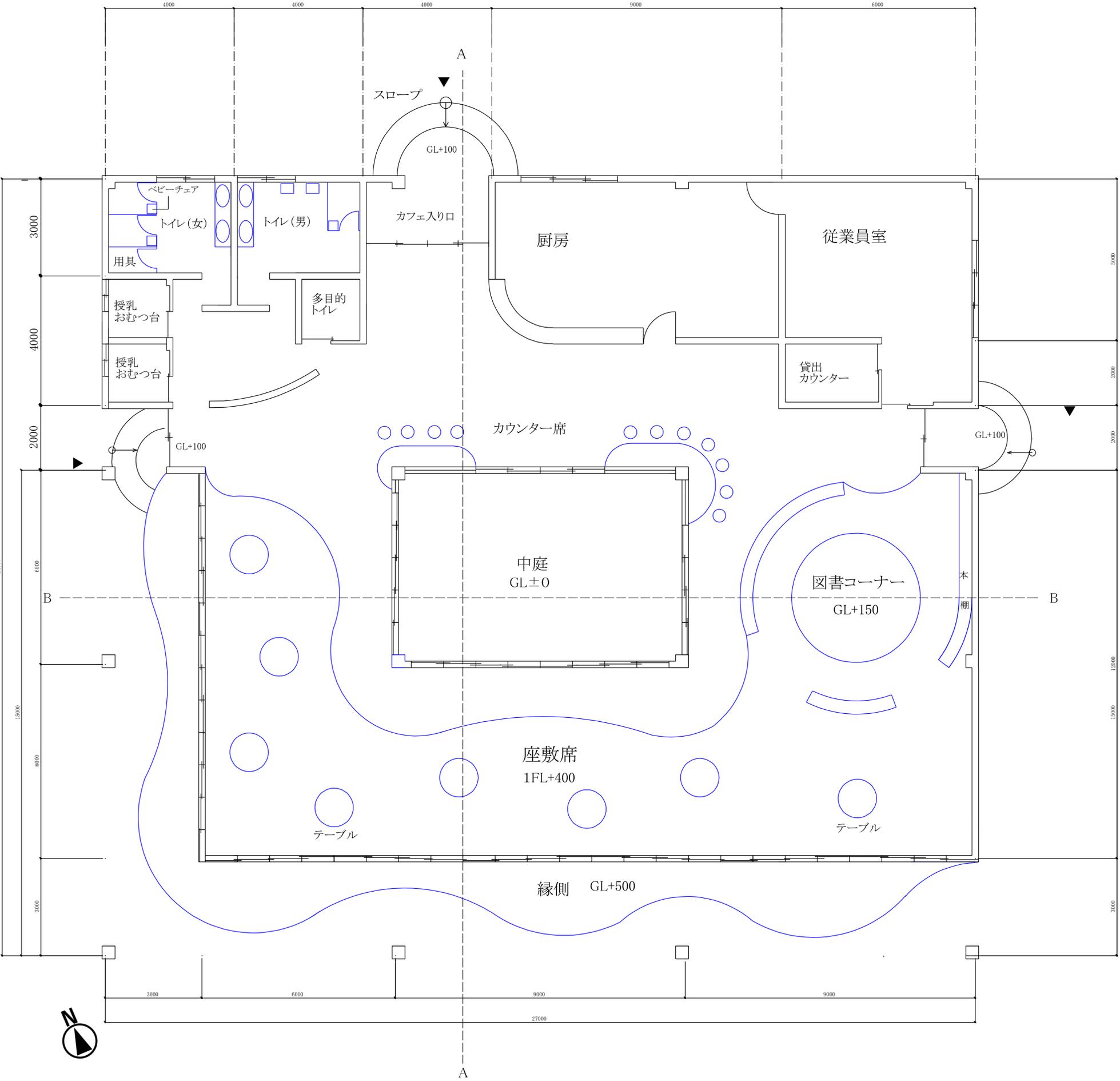
B-B断面 S 1:50



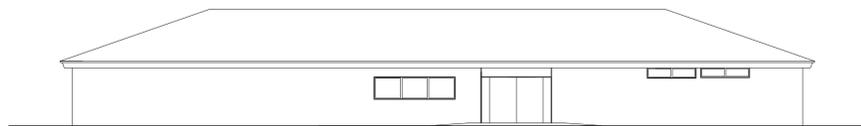
Point5. 外での遊び

遊ぶ場所を提供することがテーマではあるが、それは施設のみで構成されるのではない。外で遊ぶ場所もつくりたい。子供は狭い室内だけでは満足しない。たくさん走って、汗かいて、泥だらけになって、遊んでほしい。外での遊び場として、噴水と丘をつくる。普通の公園にある遊具ではなくて、こう公園にしかない少し規模の大きいものが良いと思った。

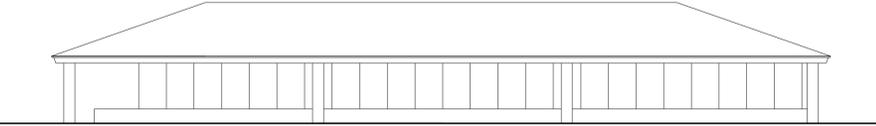




平面図 S 1:50



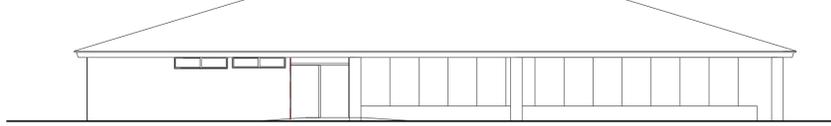
立面図 北 S 1:100



立面図 南 S 1:100



立面図 東 S 1:100



立面図 西 S 1:100



Point 6. 外観

日本の伝統家屋を思わせる枠組みに、2方向を全面ガラスとしたことで、新しさを与える。構造は鉄骨構造だが、子供を中心とする施設のため、温かみのある木材を多く用いる。

